

093 メシア受難の予告(イエス、死と復活を予告する)

マタイによる福音書 16 : 21~28、マルコ 8 : 31~9 : 1、ルカ 9 : 22~27

☞十字架刑の約半年前(ティシュリの月の仮庵祭[マタイ 17 : 4]⇔十字架[ニサンの月])

21(ルカ 9 : 21~22 イエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じて、次のように言われた。)この(→イエスがメシアであり、生ける神の子であることを告白した)ときから、イエスは、**①御自分が必ずエルサレムに行って**(→マルコ 8 : 31 人の子は必ず多くの苦しみを受け)、**②長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて③殺され、④三日目**(→古代ユダヤの数え方では、当日から数えるので、まる二日目)に復活することになっている(→復活しなければならない→he must be killed and on the third day be raised to life.[NIV])、と弟子たちに打ち明け始められた(→マルコ 8 : 31 教え始められた)。

→祭司長やサドカイ派、ファリサイ派の指導者たちが議会—最高法院：長老、祭司長、律法学者たち、71人の構成員から成る—を開催し、地域の諸問題について決定する権利をローマ帝国から与えられていた(マルコ 14 : 53、55)。

【参考】エルサレム

ユダヤ(ユダのラテン語名)の首都で、ユダ族のイスラエル人が定住した地域。ダビデ王の時代からエルサレムはイスラエルの宗教の中心であった。イエスの時代、ローマ帝国がエルサレムを支配していたが、神殿での礼拝は許されていた。当時の神殿はヘロデ大王の大改築中であった。イエスは、宗教指導者たちと真っ向から立ち向かうことになると知りながら、エルサレムに行き、教えを説いた。

ナザレ / エルサレム / ベツレヘム



※ナザレ/エルサレム(イスラエル)/ベツレヘム(パレスチナ自治区)

出典(図のみ)：産経ニュース/ (図A) 毎日新聞 (図B) →上記図は一部加工しています。

22 すると、ペトロはイエスをわきへお連れして(→手を取って引き寄せて)、いさめ始めた。

「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」

→イエスから誉め言葉をもらったペトロの心に、ため口(=同自口)的な傲慢さ—まるで自分の力で阻止してみせるといふ傲慢さ—人間的な感情が出ている。

23 イエスは振り向いて(シモン・)ペトロに言われた。

「**サタン(=敵対者)、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。**」

→(マタイによる福音書 4 : 10) すると、イエスは言われた。「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、／ただ主に仕えよ』／と書いてある。」

→ (マルコによる福音書 8 : 33) イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。
「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」

24 それから、弟子たちに言われた。

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。

→自分の十字架を背負う：イエスが味わった、人々から完全に拒否されるという体験を、自分のものとして生きることである。

25 自分の命 (=プシュケー：ギリシア語=自分の身) を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。

→利己的な動機で生きている人は人生の喜びを体験することができない。これに対し、イエスのために生きる人は、人生の意味を発見できるようになる。

26 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命 (=身) を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。

27 人の子は、父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、そのとき、それぞれの行いに応じて報いるのである。

28 はっきりしておく。ここに一緒にいる人々の中には、人の子がそ (=神) の国と共に来るのを見るまでは、決して死なない者がいる (リビング・バイブル：今ここにいる者の中には、生きているうちに、わたしが御国の力を帯びて来るのを、その目で見る者がいます)。」

★人は、恵みにより、信仰 (福音) によって救われる。

→ガラテヤの信徒への手紙 5 : 24

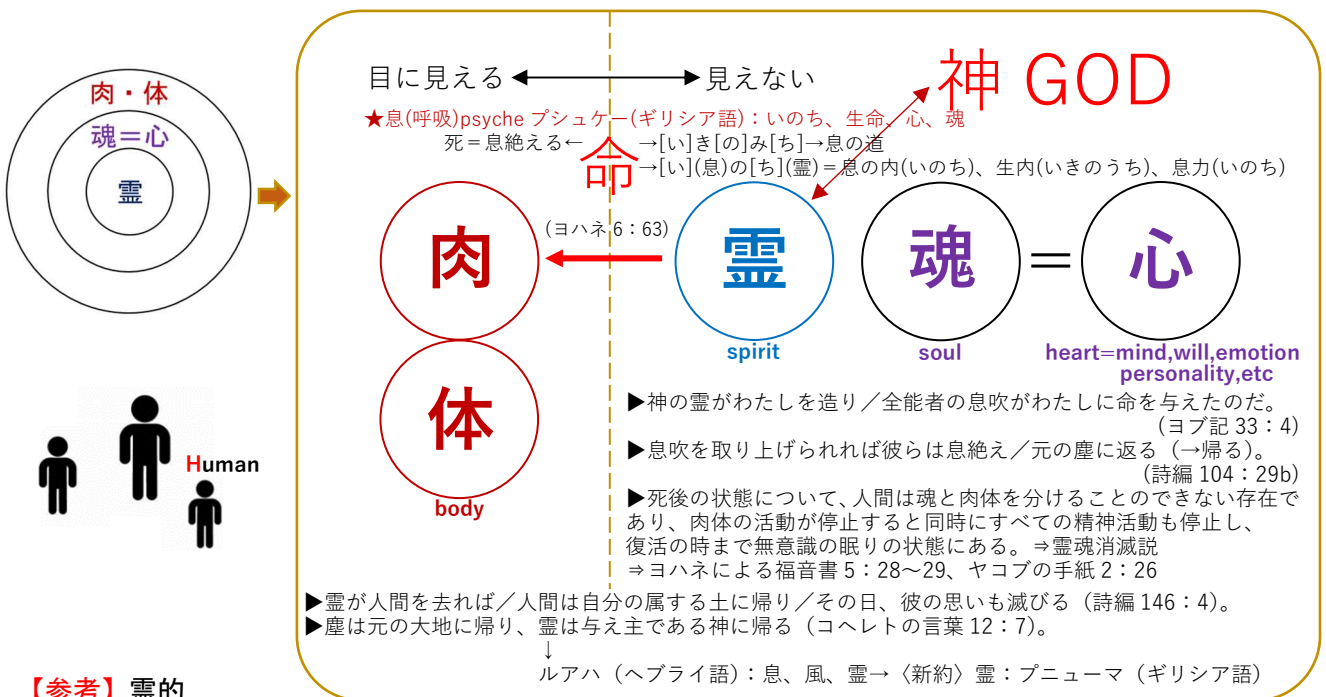
キリスト・イエスのものとなった人たちは、肉を欲情や欲望もろとも十字架につけてしまったのです。

【参考】聖書にある「イエスの死と復活」

タイトル(書名)	章:節 聖句	〔検索対象総数 : 8 / 聖句等の総数 33250 〕	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S マタイによる福音書	◆イエス、死と復活を予告する	16 : ②①~28 ←○の数字が該当聖句	
S マタイによる福音書	◆再び自分の死と復活を予告する	17 : 22~②③	
S マタイによる福音書	◆イエス、三度死と復活を予告する	20 : 17~①⑨	
S マルコによる福音書	◆イエス、死と復活を予告する	08 : ③①~09 : 01	
S マルコによる福音書	◆再び自分の死と復活を予告する	09 : 30①①~32	
S マルコによる福音書	◆イエス、三度自分の死と復活を予告する	10 : 32~④④	
S ルカによる福音書	◆イエス、死と復活を予告する	09 : 21②②~27	
		②②ルカは、「再び自分の死と復活を予告する」ではなく、「再び自分の死を予告する」(9 : 43b~45)でリアルな表記がない。	
S ルカによる福音書	◆イエス、三度死と復活を予告する	18 : 31~③③~34	

【参考】肉(体)、霊、魂、心 等

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 10 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
K 民数記	27:16 「主よ、すべての肉なるものに霊を与えられる神よ、どうかこの共同体を指揮する人を任命し、	
K エゼキエル書	11:19 わたしは彼らに一つの心を与え、彼らの中に新しい霊を授ける。わたしは彼らの肉から石の心を除き、肉の心を与える。	
K エゼキエル書	36:26 わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与える。	
S ヨハネによる福音書	6:63 命を与えるのは“霊”である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。	
S コリント信徒への手紙 I	15:46 最初に霊の体があったではありません。自然の命の体があり、次いで霊の体があるのです。	
S ガラテヤの信徒への手紙	5:17 肉の望むところは、霊に反し、霊の望むところは、肉に反するからです。肉と霊とが対立し合っているのです。あなたがたは、自分のしたいと思うことができないのです。	
S エフェソの信徒への手紙	4:4 体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。	
S テサロニケの信徒への手紙 I	5:23 どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。 (聖書協会共同訳)また、あなたがたの霊と心と体 (spirit, soul and body) とを完全に守り、 私たちの主イエス・キリストが来られるとき、非の打ちどころのない者としてくださいますように。	
S ヤコブの手紙	2:26 魂のない肉体が死んだものであるように、行いを伴わない信仰は死んだものです。	
S ペトロの手紙 I	3:18 キリストも、罪のためにただ一度苦しめられました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しめられたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです。	



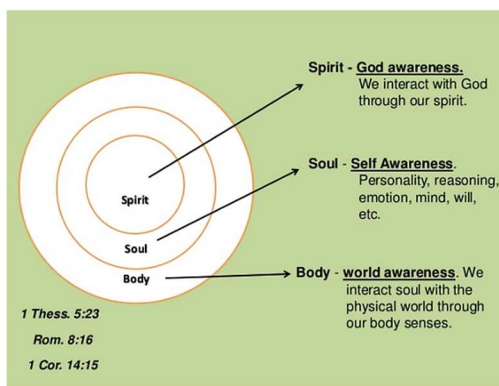
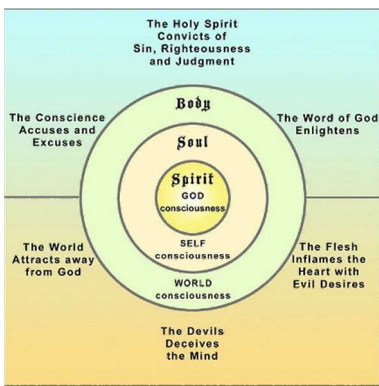
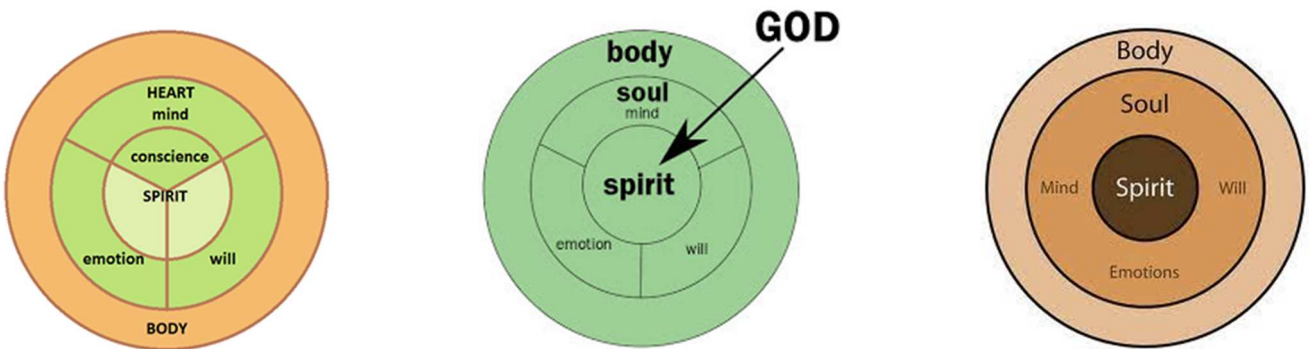
【参考】霊的

① ヒトの内面を指す。→ 人間は霊的存在である。

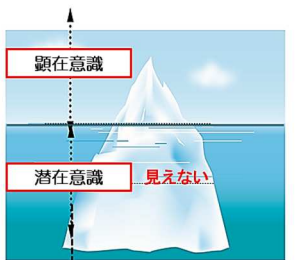
→ 人はパンだけで生きる (→ 息[生命活動の根幹]をする → 【いき】をす【る】 → 生きる) ものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる (マタイによる福音書 4:4 → 申命記 8:3)。

② 聖霊の働きを指す。→ 霊的賜物: 聖霊がくださる賜物 = 御霊 (みたま) の賜物

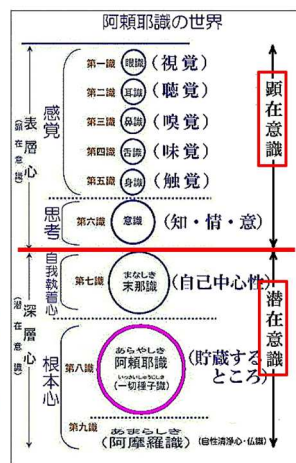
【参考】 海外のウェブサイトでは



【参考】 仏教では



末那識は、執着する心の深い所で、行動に影響を与えているものが自分の主人である。
根本心は、人間存在の根本にある心。普段自覚できる意識よりもはるかに深いところで、はるかに強い力で私たちを動かしている識です。



【参考】 息(呼吸) プシュケー=Psyche(G)

プシュケーを訳す場合、一つの訳語で表すことは難しい

→ 1. いのち、2. 生命、3. 心、4. 魂

- ・ 息：生命活動の根幹
- ・ 息をする→いきをする→生きる
- ・ 息の道→いきのみち→命
- ・ 息々々→生き生きしている
- ・ 息絶える→死